

文法を楽しく!!

「～て～」(1)

通信で習った項目：「は」と「が」、他動詞・自動詞、受身、やりもらい、～てきた、～ていく、～ている、～てある、～ために、～ように、～たら、～と、**～て**

今回と今回は「～て」が次の文にかかってくる「～て～」の形を考えます。

「て」によって2文(2文以上の場合もある)が接続するとき、次のような形をとります。

て、				
<table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">前文 (Sentence 1)</td> <td style="text-align: center;">後文 (Sentence 2)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ぜんぶん</td> <td style="text-align: center;">こうぶん</td> </tr> </table>	前文 (Sentence 1)	後文 (Sentence 2)	ぜんぶん	こうぶん
前文 (Sentence 1)	後文 (Sentence 2)			
ぜんぶん	こうぶん			

「S1て、S2」では、S1とS2の時間的關係や、そこに使われる動詞・形容詞などの種類で、次のI～IVのように意味用法が変わってきます。

I. 動作が続いて起こることを表す「～て～」(継起)

- (1) 図書館に行って、本を借りてこよう。
- (2) きのはうはうちに帰って、すぐシャワーを浴びた。

これらの文では、S1が終わって、引き続いてS2が起こることを表しています。

S1とS2の間には時間的な前後関係があります。またS1とS2の主語(動作をする人・もの)は同じです。

II. その動作がどのような状態で行われているかを表す「～て～」(付帯状況)

- (3) めがねをかけて運転する。
- (4) テープを聞いて勉強します。

これらの文では、S1が状態・手段を表し、S1の状態・手段のもとでS2が行われていることを表します。

- (3) ではめがねをかけた状態で運転をし、(4) ではテープを聞くという手段で勉強することを表します。

S1とS2の間には時間的な前後関係はありません。S1とS2の主語は同じです。

III. 理由を表す「～て～」(動詞・形容詞・「名詞+だ」)

- (5) 借金取りが来て困っている。

- (6) ゆうべは寒くて寝られなかった。
- (7) 土砂崩れで新幹線が止まってしまった。

「～て」が理由を表す場合は、S1かS2のどちらか、または両方が、状態や無意志の動作を表す場合です。(5)の「困っている」、(6)では、「寒い」と「寝られなかった」、(7)の「止まる」が状態や無意志の動作を表しています。

理由を表す「～て～」では時間の前後関係はそれほど重要ではありません。また、S1とS2では主語は同じ場合も違う場合もあります。

IV. 並列を表す「～て～」

- (8) 彼は医者で、お金も持っている。
- (9) 彼女はスキーができて、馬にも乗れる。

(8)は「彼」について、(9)は「彼女」について複数のことが並べて説明されています(複数のことを並べて説明することを「並列」と呼びます)。S1とS2の主語が同じで、状態動詞、形容詞、「名詞+だ」で結ばれているときは並列になりやすくなります。

以上、I～IVで「～て～」の主な用法について説明しました。たぶん皆さんは「～て～」の形はやさしいと思っているのではありませんか。次の「？」の付いた文は外国人学習者が作ったものです。どこがおかしいところがあるのですが、考えてみてください。

問題

1. A: きのはう何をしましたか。
B: ?きのはうは起きて、洗濯をして、手紙を書いて、ご飯を食べて、テレビを見ました。
2. ?めがねをかけながら運転する。
3. ?寒くてヒーターをつけよう。
4. ?このりんごはおいしくて、赤くて、大きいです。

1は動作が続いて起こることを表す「～て」の使い方

ですね。2はどうでしょう。3は理由を、4は並列を表す「～て」の用法です。正解は次のようです。

- 1' A:きのう何をしましたか。
B:きのうは朝洗濯をして、手紙を書きました。そして、昼ご飯を食べてから、テレビを見ました。
2' めがねをかけて運転する。
3' 寒いから、ヒーターをつけよう。
4' このりんごは赤くて、大きくて、おいしいです。

では、次に、これらの誤用を踏まえて、「～て～」の主な用法について注意すべき点を取り上げます。

I. 動作が続いて起こることを表す「～て」(継起)

注意1 「～て、～て、～て…」と長く続けないこと。

「きのう何をしたか」と質問されると、したことをいろいろ言いたくなりますね。しかし、「～て」でつなぐときは、学習者の文1Bのように「～て、～て、～て…」と長くつなぐことは実際にはありません。正解文のように、せいぜい一つの動作か二つの動作が「て」でつながれます。

注意2 同じグループの動作を並べること。

1Bでは「洗濯する」「手紙を書く」「テレビを見る」と同列に、「起きる」「ご飯を食べる」を並べています。初めの三つの動作は、Bさんが人に話すに値する動作ですが、「起きる」「ご飯を食べる」は誰でも日常行う動作なので、「洗濯する」「手紙を書く」などと並べるとおかしくなります。「～て」で動作をつなぐときは、同じようなレベルの動作どうしをつなぐようにしてください。

「～て」でつなぐ代わりに、「～たり～たり」でつなぐ方法もあります。「～たり～たり」でつなぐと1Bは次のようになります。

(10) きのうは洗濯をしたり、手紙を書いたりしました。

II. その動作がどのような状況・状態で行われているかを表す「～て」(付帯状況)

注意3 「～て」と「～ながら」を混同しないこと。

ここで説明しようとしている「～て」は、同時動作を表す「～ながら」と混同しがちです。「～ながら」は二つの動作を同時にすることを表し、「～て」は一つの動作をするときにどういう状態・手段であるかを表します。次のaとbは同じではありません。

- (11) a. めがねをかけて運転する。
b. めがねをかけながら運転する。

(11) a はめがねをかけた状態で運転することを、(11) b は今まさにめがねをかける動作をしながら、運転をしています。

このコーナーの担当者: 市川保子 (日本語国際センター客員講師) このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。「ヤスコの日本語ハウス」という個人のホームページを開いています。英語の翻訳も付いていますので、ぜひ活用してください。ホームページのアドレスは、<http://homepage3.nifty.com/i-yasu/index.htm> です。

ていることを表します。したがって、この場合は、bの文は不自然になります。



(11)a



(11)b

III. 理由を表す「～て」

注意4 理由を表したい場合は、S2に意志や願望・義務を表す表現 (例: 行こう [意志]、行け [命令]、行ってください [依頼]、行きたい [願望]、行かなければならない [義務]、など) を使わないこと。

- (12) 寒くてヒーターをつけた。
(13) ?寒くてヒーターをつけてもいいですか。
(14) ?寒くてヒーターをつけたい。
(15) ?寒くてヒーターをつけてください。

(12) は単なる事実を表しているため、理由を表す文としても適切です。一方、(13) ~ (15) はS2に「～てもいい (許可)」「～たい (願望)」「～てください (依頼)」などの意志表現が来ていて、不自然な文となっています。このような場合は、次のように理由を表す「～ので」や「～から」を使う必要があります。

- (13') 寒いので、ヒーターをつけてもいいですか。
(14') 寒いから、ヒーターをつけたい。
(15') 寒いから、ヒーターをつけてください。

IV. 並列を表す「～て」

注意5 ものや人について述べるときは、判断・評価を表す語を一番最後に持ってくること。

「このりんごはおいしくて赤くて大きいです。」では、「赤い」「大きい」はりんごの色や形を表していますが、「おいしい」は味についての話し手の判断・評価(「いい・悪い」などの気持ち)を表します。この文では「おいしい」の、文の中での位置がよくないようです。正解文4'のように、「おいしい」を一番最後に持ってきてみましょう。

このように、いくつかの形容詞を並べる場合は、色や形などの外観を表すものを先に、最後に「おいしい・いい・おもしろい・楽しい・よくない」などの判断・評価を持って来れば文が適切になります。

参考文献

- 市川保子 (1997) 『日本語誤用例文小辞典』 凡人社
市川保子 (2005) 『初級日本語文法と教え方のポイント』 スリーエーネットワーク